

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業  
 領域開拓プログラム（研究テーマ公募型研究テーマ）  
 評価用研究成果報告書

課題		「責任ある研究とイノベーション」の概念と 「社会にとっての科学」の理論的 実践的深化		
研究テーマ名		生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究 —21世紀型参加のビジョンと試行—		
研究代表者	所属機関	神戸大学		
	部局	人文学研究科（先端融合研究環）		
	役職	教授（副研究環長）	氏名	松田 毅
委託研究費		単位：千円		
平成29年度	平成30年度	平成31年度 令和元年度	令和2年度	
2,925	4,973	4,095	1,170	

### 1. 研究の概要

研究目的、研究内容、研究成果やその波及効果等、実施した研究の概要について、簡潔に記述してください。

プログラムの目的は、生命・環境分野に関連する人文社会科学の知を生命科学・環境科学者を交えた研究により革新することである。社会運動や市民参加の手法からも学び、21世紀の科学技術社会に相応しい、安全で経済的に優れた生命・環境技術の社会実装のための倫理的条件、企業活動と法的創造の可能性、社会制度の設計、教育方法を提言することを目指す。討議手法のモデルを提案することで生命と環境の人文社会科学の専門知の社会化を推進することを目指す。

メタ科学技術研究ワークショップの開催は、webによるものも含め、2020年7月末現在、50回に迫り、内外の研究者、企業、法律、メディア、NPOの専門家など、報告者数は延べ70名を超える。研究は三段階で行われた。[1]問題確認のサーベイ（RRI調査、市民参加型社会運動分析、技術の社会実装の意思決定の制度的法的分析）、[2]事例に即し問題の分析枠組みを多角的多元的観点から再検討し更新する理論的課題の検討（リスクアセスメントの方法論、研究開発の経済学、イノベーションに関する科学技術社会論、政治経済学）、[3]責任ある生命・環境技術の社会実装の構想の提案に向け、教育手法の開発（科学哲学的検討、設計計画概念の更新、インフォームド・コンセントモデルの限界確定、経済社会のビジョン検討、問題討議の手法の開発試行）である。

研究成果は、毎回の報告と討議の内容をメタ科学技術研究プロジェクトのサイト（<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/mst/>）で公開するとともに、オープンジャーナル『21世紀倫理創成研究』（<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/kernel/seika/NCID=AA12350231.html>）10号以降に論文等の形で掲載している。また、研究プロジェクトの国際的位置づけを測り、研究を発展させるために2018/19年に開催した、国際ワークショップの成果は、英国やドイツ等、海外の研究者も交え、自然科学も含め、人文社会科学の領域を横断し問題を論じた、英文論文集、*Risks and Regulation of New Technologies*. Ed by. Matsuda, T., Wolff, J., Yanagawa, T. (Springer)として刊行が決定している。今後は、残る期間に教育面の試行を予定し、和書による成果発表を目指す。

以上の成果の公開・発信のほか、市民向けにゲノム編集に関する問題を論じるサイエンスカフェやアスベストによる健康被害に関わる講演、国際交流なども行い、社会への直接的働きかけも行った。